平成 18 年（2006 年）3 月 1 日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
No.91
廃棄物学会

廃棄物学会事業執行体制の改革について

総務委員会

廃棄物学会では、平成 18 年度から事業の執行体制を改めることになりました。平成 3 年 3 月発足以来もっとも大規模な改革です。従来は、総務、編集、年会、企画、研究、国際の 6 委員会体制で事業を執行してきましたが、これを 4 委員会に集約した新体制で臨むことになりましたので、お知らせします。

≪背景≫

学会発足以来伸び続けてきた会員数は、平成 14 年度をピークに減少傾向にあります。このことは学会運営に大きな影響を及ぼしており、特に事業運営経費の 70%近くを会費収入に委ねている学会の財政事情は、極めて厳しい状況にあります。他方、事業活動は多くの会員の努力と協力により、会員の要望に応え順調に推移してまいりました。しかし、昨今の状況から、会員が要望する事業の的確な把握と執行の迅速化・効率化を図りながらも、経費の節減に結びつく事業全体の見直しが必要な時期を迎えています。また、学会発足以来の課題であった法人化について、国の公益法人見直しがようやくまとまり、今通常国会に新法律案が提出されようとしております。これが成立した時点での法人化が、現実的になっております。

こうした背景から、将来の学会を見据えた議論を行うための廃棄物学会財政問題等検討委員会が、平成 17 年 6 月に設置されました。委員会を 3 回開催し、その検討結果について理事会で 2 回に亘って協議を重ね、新しい事業執行体制が決まりました。

≪新事業執行体制≫

新体制の検討に際しては、まず次の基本的な事項が定められました。

①現行 6 委員会体制を 4 委員会体制とする。
②委員会の中には必要に応じて、分科会、実行委員会を設け、機能の充実と効率化をはかる。
③新委員会は表のとおりとし、委員会の委員数は、委員会の構成に即した数とする。

この新体制は、去る 2 月 9 日開催の理事会において、廃棄物学会委員会の設置及び運営に関する要綱の改正が承認され、平成 18 年 6 月 1 日から施行されることが決まりました。

≪今後の課題≫

今回の改正は、基本的には発足以来築き上げてきた事業実績と運営方法を踏襲しています。その実績を今後さらに効果的に、且つ効率的に展開しようとするものです。限られた財源を如何に効果的に活用できるか、これが最大の課題であろうと思います。学会は、皆様の会費とボランタリーな協力により成り立っています。学会活動へのなお一層の積極的な参加をお願いいたします。

新委員会名称	所掌事務	現状との比較など
企画運営委員会	廃棄物学会に関する企画・運営管理 役員選挙 表彰 廃棄物学会主催事業の企画･運営 広報	総務委員会と企画委員会の所掌事務を統合した委員会とし、廃棄物学会全体に関する企画を担当します。
編集委員会	廃棄物学会誌の編集･発行 廃棄物学会論文誌の編集･発行（和文誌、英文誌） 廃棄物学会論文誌投稿論文の審査	従来と同様の事務を所掌します。
学術研究委員会	廃棄物学会研究発表会の企画･運営 廃棄物学会研究発表会発表論文の審査 廃棄物学会研究討論会の企画･運営 研究活動の実施 研究部会の運営管理	年会委員会と研究委員会の所掌事務を統合した委員会とし、事業を円滑に推進できる体制にします。
国際委員会	国際活動の方針決定 諸外国との国際交流 国際会議等の主催 国際広報（英文ニューズレターの発行）	国際交流をより活発に展開できる体制にします。

廃棄物学会１年の歩み

平成17年（2005年）の活動状況

昨年は廃棄物学会にとって、特別な年であった。学会長の田中信壽先生が３月に亡くなられ、引き続いて会長代行を務められた藤本忠生副会長が 4 月に亡くなられるという悲しい出来事が続いた。その後は、副会長であった山本和夫先生が会長に就任されて新体制が確立し、前会長の定められた既定方針をさらに推し進めることとなった。

学会活動については、例年通り 5 月に総会及び研究討論会が川崎市で開催された。10 月には廃棄物マネジメント分野の国際協力の推進方策の 1 つとして、アジア太平洋地域を中心とする専門家ネットワークの構築に関する検討を進めるため、アジア太平洋廃棄物専門家会議が東京で開催された。10 月末日からは、仙台で 16 回目の研究発表会が開催された。また、支部による行事も前年と同数の 20 回が実施され、支部を通じての地域活動が定着しつつある。当学会における 2005 年の活動状況は下表に示すとおりで、いずれも会員各位の協力を得て円滑に進められた。本年も、学会活動の更なる活性化に向けて、会員各位のご協力をお願い申し上げたい。　（広報委員会　松村治夫、立尾浩一　記）

◀総会の様子

◀研究発表会の様子

平成 17 年（2005 年）の活動状況

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
平成17年 2月22日	企画委員会、東北支部 市民と学生のためのセミナー	仙台市	「容器包装リサイクル法は地域活性化の糧となるか？」
3月10日	平成16年度特別セミナー （企画委員会）	東京都 港区	「廃棄物資源化事業の最前線の動向とその先にある展望」
3月26日	東海・北陸支部 市民フォーラム・総会	名古屋市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案） 「市民がつくる循環型都市の将来像」
4月2日	関西支部 セミナー	大阪市	「第2回廃棄物法制度に関するセミナー ～廃棄物関係の法律の制定・改正等について～」
4月15日	関西支部 見学会	大阪市 伊丹市	「舞洲スラッジセンター」 「伊丹市昆陽池の汚泥浚渫工事」
5月12日 ～14日	韓国廃棄物学会2005年度春季学術発表会 （国際委員会）	韓国 安東市	韓日特別シンポジウム、ポスターセッション
5月20日	中国・四国支部 講演会	岡山市	大気環境学会・日本水環境学会・廃棄物学会中国四国支部合同講演会 「大気・水・廃棄物の各視点からの地球温暖化抑制に対する取り組み
5月27日	平成17年度総会、 平成16年度廃棄物学会賞表彰式	川崎市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案）
5月26日 ～27日	平成17年度研究討論会 （年会委員会、研究委員会）	川崎市	「３Ｒイニシアティブ後のアジアと日本」 「循環型社会に相応しい都市ごみ処理への変革を考える －焼却・埋立の立場から－」 「市民参加型循環型社会づくりを考える」 「廃棄物等の発生抑制と排出抑制」 「学会連携　本格的にはじまった自動車リサイクル」

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
6月4日	九州支部 総会、講演会	福岡市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案） 講演会「北九州エコタウンの現状と今後の展開」
7月2日	関西支部 市民と学生のためのセミナー	大阪市	「ごみと海 めぐるーごみ･生命･環境」
7月7日	中国・四国支部 総会、講演会	宇部市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案） 講演会 「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント～廃棄物処分場の有害物質の安全・安心保障」
7月19日	東海・北陸支部 第１回見学会	桑名市	「三重県ごみ固形燃料（ＲＤＦ）製造・発電・灰洗浄施設見学会」
7月22日	北海道支部 見学会	室蘭市	「新日本製鐵(株)　室蘭製作所」、「日鐵セメント(株)」
8月11日	東北支部 総会・講演会	仙台市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案） 講演会 「飛灰処理の技術動向」 「バイオマス総合戦略におけるメタン発酵の役割」
10月7日	平成17年度技術セミナー （企画委員会）	市川市	「資源化施設の最前線」
10月14日	中国・四国支部 セミナー（見学会、講演会）	周南市	見学会「山口エコテック(株)」、「(株)トクヤマ　最終処分場、セメント工場」 廃棄物セミナー「山口県における廃棄物最終処分場の現状」、「廃棄物最終処分場の役割と課題」、「廃棄物処分と地下水汚染」
10月22日	九州支部 市民フォーラム、視察研修・研究集会	佐世保市	市民フォーラム 「ごみについて徹底討論しよう！！」 －持続可能な社会を将来世代につなぐために－ 視察研究・研究集会 テーマパークの環境設備導入の成果検証
10月26日 ～27日	東海・北陸支部 第２回「基礎講習会」	名古屋市	「廃棄物処理技術」第2回基礎講習会
10月28日 ～29日	アジア太平洋廃棄物専門家会議	東京都 新宿区	基調講演（2件）、各国専門家からの発表、全体討議など
10月31日 ～11月2日	第16回研究発表会 （年会委員会）	仙台市	研究発表(41セッション)、特別講演、日韓シンポジウム、小集会(8部会)、優秀ポスター賞表彰
11月5日	北海道支部 シンポジウム	札幌市	「土木建設系廃棄物のライフサイクル戦略は可能か」
11月16日 ～20日	中国・四国支部 企画展、講演会	広島市	「ハイムーン環境まんが展inひろしま・高月紘先生講演会」
11月25日	北海道支部 シンポジウム	札幌市	「循環型社会を目指す北海道のバイオマス戦略２～ 廃棄物系バイオマス利用の先進事例 ～」
11月28日	東海・北陸支部 講演会	福井市	「廃棄物問題の過去・現在・未来」
12月1日	平成17年度シンポジウム （企画委員会）	千葉市	「国際資源循環の現状と展望」
12月1日	東海・北陸支部 見学会	田原市 豊橋市	「田原リサイクルセンター　－炭生館」、「豊橋市プラスチックリサイクルセンター」
12月13日	関西支部 総会、見学会・技術セミナー	大阪市	平成16年度事業報告・収支決算・監査報告 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案） 見学会「カンポリサイクルプラザ㈱」 技術セミナー「資源循環のあるべき姿」「カンポリサイクルプラザにおけるリサイクルの取組み」

■□■□　企画委員会　■□■

平成 17 年度シンポジウム　　平成 17 年 12 月 1 日

「国際資源循環の現状と展望」開催報告

平成 17 年 12 月 1 日（木）、幕張メッセにおいてウエステック 2005 と同時開催された第 9 回日本廃棄物会議の中で、学会主催のシンポジウムが開催された。テーマは「国際資源循環の現状と展望」という３Ｒイニシアティブ閣僚会議にも繋がるタイムリーなものであり、約 50 名が熱心に聴講した。

澤地副会長の開会挨拶に続き、コーディネータの藤井美文氏（文教大学）から問題提起をいただいた。その後、パネリストの意見として中野聰恭氏（日本繊維屑輸出組合）から衣料品のリユースとリサイクルの歴史と現状、瀧本義継氏（関東製紙原料直納商工組合）から中国の古紙需要動向と日本の古紙需要、中島賢一氏（日本鉄リサイクル工業会）から日中間における安心と信頼の資源循環システム、小島道一氏（日本貿易振興機構アジア経済研究所）からアジアにおける循環資源貿易の現状と課題について発表していただいた。

休憩をはさみ、藤井氏による論点整理の後、パネルディスカッションが行われた。論点１では、再生資源の国内需給ギャップの不安定性をテーマとした。国内企業の海外移転によってブラウン管ガラス需要が大幅に減少していること、米国では一部の中古部品使用再組立品が製品として流通していることなど国際資源循環の実態について討議された。論点２では、リサイクルに伴う汚染と資源の有効利用をテーマとした。トレーサビリティーの必要性、海外でのリサイクル従事者の健康被害の実態などが話された。論点３では、適正な国際資源循環の課題と今後の展望をテーマとした。EPR の難しさ、各国の所得とリサイクル品の国際価格とのギャップなどが討議された。最後に藤井氏が、すぐに結論の出るテーマではないが、生産のグローバリゼーションの中で、長期ビジョンを持った３Ｒ政策、地道な対策、専門家育成が重要であると締めくくり、３時間におよぶシンポジウムが終了した。

（企画委員会　玉出善紀　記）

▲シンポジウムの様子

■□■□　関西支部　■□

平成 17 年 12 月 13 日

総会、見学会・技術セミナー開催報告

平成 17 年 12 月 13 日（火）、京都府内において、平成 17 年度支部総会及び「循環型社会形成のための基礎技術」をテーマとした技術セミナー、見学会が開催された。午前中の総会、技術セミナーには 71 人、午後の見学会には 59 人の参加があった。

総会では、平成 16 年度の事業報告、決算報告及び平成 17 年度の事業計画が説明され、承認された。セミナーでは、村田徳治氏（資源循環研究所）に「資源循環のあるべき姿」と題してご講演いただいた。諸外国との比較を交えながら、日本全体における物質・エネルギーの流入・蓄積・排出の現状及びエネルギー利用効率向上の観点から日本の廃棄物処理のあるべき将来像についてお話いただいた。さらに、食品廃棄物、廃プラスチックなど個別の廃棄物処理について、ＬＣＡの考え方に基づいた各種処理技術に対する評価・考察が、豊富なデータと共に述べられた。

続いて、カンポリサイクルプラザの説明、見学会が行われた。当プラザは、多数のリサイクル施設から構成され、単に廃棄物を処理、再生するだけでなく、その過程で生まれる副生物、エネルギーも相互利用する複合型のリサイクル施設である。バイオガスも発電や自動車燃料に有効利用されている。当日は、既に稼働中のサーマルリサイクル施設、廃家電リサイクル施設、バイオリサイクル施設を見学させて頂いた。

真冬並みの寒さにもかかわらず、多数の質疑応答がなされ、盛会裏に終了することができた。最後に、講師の方々並びに見学施設の関係者の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。（関西支部　釜田陽介　記）

▲技術セミナーの様子

廃棄物問題特別講演会 平成 17 年 11 月 28 日

「廃棄物問題の過去・現在・未来」開催報告

平成17年11月28日（月）、東海・北陸支部主催、福井商工会議所共催で「廃棄物問題特別講演会」が福井市で開催され、約100名の参加があった。

はじめに、伊藤支部長から支部の活動内容や今回の福井開催の取り組みについて挨拶と紹介があり、続いて廃棄物学会前会長で石川県立大学の高月紘教授が、「廃棄物問題の過去・現在・未来」と題した講演をされた。その要旨はつぎのとおり。

今は近代的できれいな銀座も、昔は路端にコンクリート製のごみ入れが設置してあり、ごみがはみ出し、汚水が流れ出ており、現在では想像もつかない状態だった。また、以前のごみの中身は木竹やわらが多かったのに対し、現在ではこれらに代わってプラスチック類が多くなり、我々の生活環境の変化を実感できる。

廃棄物対策の目的は、最初は公衆衛生、伝染病対策などが中心であった時代から、リサイクル・再資源化、3Rさらには発生抑制・シンプルライフへと移ってきている。その中で、資源枯渇、処分地の逼迫およびダイオキシン対策が重要になった。ごみ処理方法は、以前は埋立てと焼却が半々であったのに対し、最近では、焼却処理が多くなり世界有数のごみ焼却大国となった。一方、豊島事件に代表される不法投棄問題は全国津々浦々にまで広がり、異常と言うほかない。また、最近ではごみ輸出も大きな国際問題となっている。

しかし、ごみの発生抑制の具体的事例としてスーパーマーケットでレジ袋を断れば、家庭ごみを削減できると同時に、石油の使用量を節約できる。そのためには、我々一人一人の意識を変えたエコライフへの取組みが必要である。

先生の豊富な経験に基づく巧みな話術とユーモラスな漫画を拝見しながら、1時間余りの講演があっという間に過ぎた。 （東海・北陸支部　松浦次雄　記）

▲講演会の様子

見学会開催報告 平成 17 年 12 月 1 日

「豊橋市プラスチックリサイクルセンター」、「田原リサイクルセンター炭生館」見学会

平成17年12月1日(木)に、プラスチックごみ中間処理施設（豊橋市プラスチックリサイクルセンター）と一般廃棄物炭化施設（田原リサイクルセンター炭生館）の見学会が開催され、42名の参加があった。

豊橋市プラスチックリサイクルセンターでは、一般家庭で分別されるプラスチックごみを毎週水曜日にステーション回収しており、本施設では、回収したプラスチックごみを容器包装リサイクル法に対応した分別基準適合物まで選別を行っている。全自動式の重量物・軽量物選別装置、圧縮梱包機等による処理と共に、シルバー、障害者の方の雇用を考慮した手選別ラインが設けてあった。選別により発生する不適物（残渣）は、近隣の資源化センター（熱分解溶融発電施設）でサーマルリサイクルがされていた。

次に訪れた田原リサイクルセンター炭生館は、全国に先駆けて100％民間の特別目的会社が実施したＰＦＩ方式のごみ処理施設である。平成17年4月より、田原市から搬入される一般廃棄物（可燃ごみ、可燃性粗大ごみ）を炭化処理するリサイクルセンターで、資金調達、設計・施工、運営・維持管理、炭化物販売までの一連の事業をグリーンサイトジャパン株式会社が実施している。炭生館では、一般廃棄物から製造した炭化物をコークス代替燃料等として愛知県内の製鋼所へ有価で販売していた。本施設は、一般見学者が自由に施設を見学できるフリースペースの設置、排気塔の高さを抑えて景観に配慮する等、これまでのごみ処理施設のイメージを払拭し、地域住民への環境配慮・情報公開を大切にしていた。(東海･北陸支部　小泉一博　記)

▲見学会の様子

【お知らせ】

関西支部主催

第３回廃棄物法制度に関するセミナー

開催日時：平成 18 年 3 月 18 日（土）13:30-16:30
開催場所：京都大学吉田キャンパス（京都市）
参 加 費：一般 1,000 円　学生 500 円
（資料代を含む。当日受付にて申し受けます）
定　　員：150 名（先着順）
申込方法：「第３回廃棄物法制度に関するセミナーに参加希望」と明記の上、住所、氏名、連絡先（TEL、E-mailなど）を記載し、E-mail、FAX、又はハガキで下記までお申し込み下さい。到着順に、受付番号をお送りします。
申込締切：3月10日（金）
申込先：〒530-0051 大阪市北区太融寺町5-15
梅田イーストビル3階
(財)廃棄物研究財団 大阪研究所 気付
廃棄物学会関西支部「第３回廃棄物法制度に関するセミナー」係
（担当：木川修二、宮田尚稔）
TEL：06-6363-3481　FAX：06-6363-3482
E-mail：o-seminar@jwrf.or.jp
http://www.jswme.gr.jp/kansai/

東海・北陸支部主催

市民フォーラム・総会開催のお知らせ

開催日時：平成 18 年 3 月 25 日（土）10:30-17:00
開催場所：名古屋都市センター（名古屋市）
参 加 費：廃棄物学会会員 1,000 円、学生 500 円
その他 1,500 円（当日受付にて申し受けます。懇親会費は別途 5,000 円）
申込方法：市民フォーラム・総会及び懇親会の出欠と連絡先を明記し、E-mail または FAX にて下記までお申し込み下さい。
申込締切：3 月 14 日（火）
申込先：東海北陸支部事務局(担当：伊藤麗子、中尾忍)
TEL：052-789-5851　FAX：052-789-5849
E-mail：r-itoh@apchem.nagoya-u.ac.jp
http://www.jswme.gr.jp/tohkai/

＝事務局からのお願い＝

〈会費納入のお願い〉　会員の皆様には、3 月末に「平成 18 年度会費納入のお願い」を送付します。5 月 31 日までに納入をお願いします。

〈学生会員の方へ〉　「会費納入のお願い」に同封して「会員資格変更届」も送付します。卒業された方は正会員となります。新しい連絡先を記入の上、FAX または郵送して下さい。

〈転居、異動等で連絡先に変更のある場合〉　学会事務局まで FAX または郵便にてお知らせ下さい。

〈退会される〉　退会届を FAX または郵送して下さい。会員番号、名前、退会する旨の一文があれば書式は問いません。

第９期役員選挙を実施中です！

現在、第 9 期役員（理事・監事）選挙を実施中です。選挙権を有する会員の方には、投票用紙を送付しております。投票締切日までに投票をお願いします。なお、立候補者名および立候補にあたっての所信を学会ＨＰに掲載しています。ぜひご覧いただき、投票の参考として下さい。

〈選挙日程〉
◎投票用紙の発送：平成 18 年 3 月 1 日　（水）
◎投票締切　　：平成 18 年 3 月 22 日（水）必着
◎開　票　　：平成 18 年 3 月 23 日（木）
※選挙権を有するのは、平成 17 年 9 月 30 日までに平成 17 年度の会費を納入している正会員です。
※選挙結果は次号の学会ニュースに掲載します。

☆☆事務局だより☆☆

中南米廃棄物行政関係者の集団研修で講義をするために、メキシコに出張した。“３Ｒ”は、スペイン語で「トレス・エレ」といい、中南米からの参加者にも知れわたるなど、急速に世界中に広がりつつある。

また、開発途上国の現場では、“３Ｍ”がキーワードとなっている。これは、“Money”、“Manpower”、“Materials”で、わが国でいう「ヒト」、「カネ」、「モノ」である。研修生達と話すと、「“３Ｍ”のない中でどのようにして組織や制度を作ったらよいのか」という声が出てくる。

途上国への技術移転においては、その国の持つ“３Ｍ”の範囲内で、持続可能な廃棄物処理方策の確立を図る必要がある。そのためには、「人材育成の推進」、「財政基盤の確立」、「機材・処理施設の確保」の３つが重要な課題となる。

わが国が提案して始まった“３Ｒイニシアティブ”は、今や、国際的にも大きな動きとなりつつある。今回の出張では、50 年前は開発途上国として、試行錯誤しつつ直面する廃棄物問題を解決してきたわが国の国際的な貢献に対する各国の期待の大きさを痛感した。我々は何を成すことができるかが問われている。

（松村治夫　記）

次号（学会ニュース No.92）は 5 月 10 日発行予定です。

会 員 状 況	H18.1.31 現在 （　）内は、H17.4.1 以降の増減
正 会 員	3,458　(25)
学生会員	369　(63)
外国人会員（ＤＭ）	26　(4)
登録団体市民会員	4　(1)
公益会員	112　(3)
賛助会員	177　(2)
計	4,146　(98)

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.91　　平成18年3月1日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
R100 印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています